LED 光音響イメージングによる

血液体外循環回路内血液凝固予知保全のための輝度範囲選定

和部 崇洋 ª, 鈴木 亮 ʰ, °, 藤井 昭光 d, 内田 庸助 °, 丸山 一雄 ʰ, °, 内田 恭敬 ª

Selection of brightness range for predictive maintenance of blood clotting in extracorporeal circulation circuit by photoacoustic imaging of LED light source

Takahiro Wabe^a, Ryo Suzuki^{b,c}, Akimitsu Fujii^d, Yohsuke Uchida^e, Kazuo Maruyama^{b,c},

Yasutaka Uchida^a

Abstract

In extracorporeal circulation, blood from the body is removed. Although measures have been taken, blood coagulation occurs in the extracorporeal circulation circuit. Blood coagulation in the extracorporeal circulation circuit causes clogging in the circuit and raises the pressure inside the circuit. The pressure inside the circuit is measured by a pressure sensor, but the response is posteriori. Therefore, in our preliminary research, we performed predictive maintenance using photoacoustic imaging of LED light sources. Preliminary studies have confirmed the possibility of measuring changes in blood clotting over time using an extracorporeal circulation device. However, if the image obtained by photoacoustic imaging is used as they are, there is a problem that the amount of data is large when performing analysis and it takes time to process. We investigated a feature extraction method for changes in brightness over time in photoacoustic imaging so that the image obtained can be reduced in capacity and lead to predictive maintenance with a low load on the system.

Keywords: Blood clotting, Photoacoustic imaging, LED, Extracorporeal circulation therapy, Luminance

Received August 1, 2021; accepted September 21, 2021

a Teikyo University of Science, Department of Life & Health Sciences, Faculty of Life & Environmental Sciences, 2-2-1, Senjyusakuragi, Adachi-ku., Tokyo 120-0045, Japan

b Faculty of Pharma-Science, Teikyo University, 2-11-1, Kaga, Itabashi-ku, Tokyo 173-8605, Japan

c Advanced Comprehensive Research Organization (ACRO), 2-21-1, Kaga, Itabashi-ku, Tokyo173-0003, Japan

d Tokyo College of Medico-Pharmaco Technology, 2-11-1 Higashikasai, Edogawa-ku, Tokyo 134-0084, Japan

e Shuto iko, 1-7-3 Nishisinjuku, Sinnjuku-ku, Tokyo 160-0023, Japan)

a 帝京科学大学 生命環境学部生命科学科, 〒120-0045 東京都足立区千住桜木 2-2-1

b 帝京大学 薬学部, 〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1

c Advanced Comprehensive Research Organization(ACRO), 〒173-0003 東京都板橋区加賀 2-21-1

d 東京医薬専門学校,〒134-0084 東京都江戸川区東葛西 6-5-12

e 首都医校, 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 1-7-3

1 緒言

血液が異物に接触すると凝固することは周 知の事実である。したがって、血液浄化療法、 人工心肺、ECMO(Extracorporeal membrane oxygenation)などに伴う血液体外循環療法は、回 路内での血液凝固の危険に晒されている^{1)~3)。} COVID-19 感染重症者の治療として最後の砦 と言われている ECMO においては、血液と血 液体外循環回路との異物反応以外にも回路内 の血液凝固が進む場合がある。過剰な免疫・炎 症反応いわゆるサイトカインストームを伴っ た凝固活性化や血栓症や播種性血管内凝固

(DIC)発症などが、それである 4^{~8}。血液を 体外循環する回路内では、上記の様に、様々な 要因により、血液凝固が発生する。血液凝固を 防ぐためにさまざまな試みがなされており、抗 凝固剤(ヘパリンなど)を使用した予防方法が 現在主流となっている 9^{~12}。しかし、ヘパリン などの抗凝固剤では、血液凝固への対策として は不十分である。

回路がつまると,血液体外循環回路内の圧力 センサーによって検出されるが,回路内の血液 の流れが極端に遅くなり,回路が詰まってから 検出されるので、検出は事後的になってしまう。 血液凝固の事後的検出は,回路内の回路の交換, 血液の破棄などの急な対応を医療従事者に強 いることにつながる。しかし、血液体外循環回 路内の,血液凝固の変化を事前的に観察するに は、従来の方法よりも感度の高い方法が必要と なる。そこで、新しい測定方法として、光音響 法が試みられている13)~15)。私たちの研究では、 血液浄化療法中に血液体外循環回路で発生す る血液凝固の経時変化を予知保全的に測定す ることを目的としている。しかし、予知保全の 測定を光音響イメージングにて行う際に,光音 響イメージングの画像を,そのまま用いて分析 を行うとデータ量が大きく,処理に時間が掛か るなどの問題がある。そこで、本研究では、光 音響で得られたイメージを低容量化して, シス テムに低負荷の予知保全につなげられるよう

に、光音響イメージングの経時的な輝度変化の 特徴量抽出法を検討した。なお、血液体外循環 回路の測定対象には、空気塞栓を防ぐためのエ アートラップチャンバとした。なお、エアート ラップチャンバには、発生した血栓が血液体外 循環回路から体内に流入するのを防ぐため、微 小凝集塊補足フィルタが含まれている。以前の 研究報告では、血液体外循環回路を模擬したマ イクロチューブ内の血液を、LED 光源の光音響 イメージングにて測定し、光音響イメージの画 像の低容量化をはかり、光音響イメージングの 経時的輝度変化の特徴量の抽出を行った¹⁶。



Fig. 1. Schematic diagram of the blood flow in the blood purification circuit.

2 実験

Fig.2 に,この研究で使用した実験装置の概略 図を示す。LED 光源の光音響イメージング装置 には,AcousticX (CYBERDYNE,INC.)を用い た。急性期体外循環療法で使用される血液循環 回路には,血液を約 80mL 注入して,ローラー ポンプにて流速 60 ml/min で回路内を循環させ た。血液の温度は血液浄化療法で一般的に用い られている 37℃に設定した。測定器の設置につ いては,これまでの研究を参考にしている^{17),18)}。 光エネルギーは約 200µJ/pulse で,波長は 850nm とした。超音波プローブには,7MHz の周波数 を選択した。

前回の実験では,測定対象の壁面が固く,超 音波プローブより小さいマイクロチューブだ



Fig.2 Configuration diagram of this experiment

ったため、水中で測定した。本実験では、血液 体外循環装置を用いて、実際の血液体外循環回 路内の血液凝固の経時的変化に伴う輝度変化 の特徴量抽出を検討した。血液体外循環回路の 測定部位であるエアートラップチャンバは柔 らかく、超音波プローブと同じぐらいの大きさ なので、超音波プローブをエアートラップチャ ンバに直付けして測定した。

血液には、市販の羊の血液を使用した。詳細 は以下の通りである。

使用血液: 緬羊無菌保存血液(100 ml/容
器)
12070210 コージンバイオ株式会社
抗凝固剤入り(アルセバー液)

使用する市販の血液は輸送のために,血液に 抗凝固剤のアルセバー液 (ALSEVER'S SOLUTION)で,抗凝固処理が施されている。血 液凝固を促進するためには,血液凝固に必要な カルシウムが必要になってくる。そこで,グル コン酸カルシウムを生理食塩水に溶かして,血 液に注入して凝固を促進させた。グルコン酸カ ルシウムにより血液凝固を促進させ,光音響イ メージングによる経時的変化を,フリーソフト の ImageJ を用いて画像化 (Bモード)した。さ らに,MATLAB により凝固前後の輝度の変化を 統計処理した。画像の輝度は 256 段階に分割し た。光音響現象が強く出ると,白くなり(輝度 255),反応が低いと黒くなる(輝度 0)。

3 結果

光音響イメージングによる経時的変化を,フ リーソフトの ImageJ を用いて画像化 (B モー ド)した。結果を Fig.3 (a) グルコン酸カルシウ ム注入直後,(b)注入 10 分後に示す。測定開始 と 10 分後の測定データから写真の水平方向に ピクセルごとの輝度の分布を調べた。なお、凝 固促進剤注入後 10 分では、血液凝固を進み血 液体外循環療法として体をなさない形になっ ている。





Fig.3 images from photoacoustic imaging

Fig.3 の測定データ (グレースケール画像) を 上から 5 分割して,輝度分析を行った。結果の 一部を Table 1 に示す。縦軸を輝度 (0~5,250 ~255),横軸を測定箇所(縦から 5 分割)とし た。各 pixel の輝度の特徴量抽出は, ImageJ に て行った。

Table 1An example of brightnessmeasurement results from a grayscale image

	10minutes					Immediately				
Measurement points Brightness	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
0	15	18	15	13	15	0	0	0	0	0
1	2	4	1	2	1	0	0	0	0	0
2	2	0	6	0	0	0	0	0	0	0
3	1	3	1	1	2	0	0	0	0	0
4	1	2	2	1	2	0	0	0	0	0
5	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0
250	3	1	3	1	3	0	0	0	0	0
251	0	1	1	1	6	0	0	0	0	0
252	1	3	1	3	1	0	0	0	0	0
253	1	5	1	3	1	0	0	0	0	0
254	1	4	5	1	0	0	0	0	0	0
255	13	19	19	13	16	0	0	0	0	0

次に、Table 1 から、MATLAB Diagnostic Feature Designer (MATHWORKS) を用いて、特徴量を 抽出した。さらに、MATLAB を用いて T-test を 算出した。各輝度の T-test 一覧を、Table 2 に示 す。Table 2 の数字は輝度(0~255)を表してお り、各輝度での T-test の結果を色分けして表し ている。T-test 6 を青色、7 を緑色、8~10 を 黄色、11 以上をオレンジとした。色分けは信 頼区間を基準としており、以下の通りに区分 けしている。青色:約 60~70%、緑色:約 70 ~80%、黄色:約 80~90%、11 以上をオレン ジ:約 90%以上。連続的に変化の T-test の信 頼区間が 60%以上の箇所を分析すると、輝度 レベルが 126~173 が該当することが分かっ

Table 2T-test results comparing before and
after solidification at each brightness



た。これらから、血液凝固前後で顕著な変化 が表れた輝度範囲は 126~173 であり、測定 時の着目すべき輝度範囲と定めた。

4 結言

着目すべき輝度範囲では、Table 2 から測定 範囲を輝度 126~173 と特定することが出来 たのではないかと考える。マイクロチューブ を用いた基礎実験では、測定範囲が輝度 109 ~169 となっており、マイクロチューブ時よ り輝度の上限に変化は見受けられないが、下 限が上がっており,より取り扱うデータ量が 削減できた。

LED 光源の光音響イメージングにて循環し ている血液体外循環回路を測定して,光音響 イメージングの経時的輝度変化の特徴量の抽 出を行い,扱うデータ量の低容量化が出来たと 言える。

謝辞

本実験にご協力いただいた CYBERDYNE の佐藤 直人氏に感謝いたします。

参考文献

- [1] J. R. Utley, *CARDIAC SURGERY*, pp.177-189, 1990.
- [2] Y. Mori, *Kobunshi Ronbunshu. Vol.42*, No.42, pp.601–615, Oct.**1985**, in Japanese.
- [3] J.K.Kirklin, A.D.Pacifico, J.Thorac Cardiovasc Surg 86:845, 1983.
- [4] N.Tang, D.Li, X.Wang, Z. Sun, J.Thromb *Haemost 18*: pp.844–847, **2020**.
- P.Mehra,D.F.McAuley, M.Brown,
 E.Sanchez, R.S.Tattersall, I.J.Manson,
 Lancet 395: pp.1033–1034, **2020**.
- [6] RJ.Jose, Lancet Respir Med 8: e46-e47, 2020.
- [7] D. J. M. Wright, *Lancet Infect Dis*, **2021**, 21, pp.25-26.
- [8] T.Iba, J.H.Levy, M.Levi, J.M.Connors, J.Thachil, *Crit Care Med* 48: pp.1358–1364, **2020**.
- [9] L.Gott, J.D.Whiffen, R.C.Dutton, SurfacesScience, 142, pp.1297,1963.
- [10] I.O.Salyer, Medical Application of Plastic, Biomedical Material Symposium No.1, Interscience, New York, 105,1971.

- [11] M.Murase, A.Usui, M.Maeda, Y.Tomita,
 F.Murakami, K.Teranishi, T.Koyama, T.Ito,
 Ot.Abe, *Article in Circulation*, 88(5 Pt2),
 1432-6, November 1993 with 8 Reads.
- [12] M.Hiroura, A.Usui, M.Kawamura, M.Hibi, K.Yoshida, F.Murakami, J.Iwase, J Extra Corpor Technol, 1994 Sep, 26(3), pp.121-5.
- [13] H. Zhong, T. Duan, H. Lan, M. Zhou, F. Gao, Sensors, Vol. 18, Issue 7, 2018, p. 2264.
- [14] T. J. Allen, P. C. Beard, *Biomedical Optics Express, Vol. 7*, Issue 4, **2016**, pp. 1260-1270.
- [15] A.B. Karpiouk, S.R. Aglyamov, S. Mallidi, J.
 Shah, W.G. Scott, J.M. Rubin, S.Y.
 Emelianov, *J Biomed Opt.*, Vol. 13, Issue 5, Sep-Oct 2008, 054061.

- [16] W.Takahiro, S.Ryo, M.Kazuo, U.Yasutaka, Proceedings of the 6th International Conference on Sensors Electronic Instrumentation Advances (SEIA'20), Porto, Portugal, 23-25 September 2020, pp.70-74.
- [17] W.Takahiro, S.Ryo, M.Kazuo, U.Yasutaka, Proceedings of the 5th International Conference on Sensors Engineering and Electronics Instrumentation Advances (SEIA' 2019), Canary Islands (Tenerife). Spain.25-27 Sept 2019. pp.157-160.
- [18] T.J.Robert, H.H.Scott, V.A.John, IOP PUBLISHING PHYSICS IN MEDICINE AND BIOLOGY Phys. Med, Biol. 52, 2007, pp.1815–1829.